

新庁舎の機能

① 共通機能

ユニバーサルデザインの実現を取り入れ、誰もが利用しやすい庁舎を目指すとともに、省資源・省エネルギー対策を推進します。

② 主な基本機能

- 住民利用が多い窓口の低層階への配置や関連窓口の近接配置などによるワンストップサービス手法の導入
- 時代の変化などに柔軟に対応できる仕切りのないオープンフロアの導入
- 平常時は通常の会議室として利用可能な災害対策本部会議室などの防災対策機能の導入
- 来庁者の休憩スペースや住民の集いの場として、喫茶コーナーや売店などの配置の検討
- 議場は、住民に開かれた議会機能の確保を図り、傍聴席は住民ニーズに配慮した利用しやすいつくりとします。

新庁舎の規模

平成23年度に廃止された地方債起債計画の起債対象事業算定基準で算出すると、総標準面積は約4517㎡となります。この総標準面積を基本に、「新庁舎の機能」に記載している考え方を取り入れたスペースの確保等を考慮し、想定面積をおおむね5000㎡から5300㎡程度とします。

建設事業計画

① 建設費用

事業費は、基本設計の段階で庁舎機

幕別町 新庁舎建設基本構想を策定

幕別町新庁舎建設基本構想(案)に対するパブリックコメント（住民からの意見募集）での皆さまからのご意見や議会における考え方などを踏まえ、「幕別町新庁舎建設基本構想」を策定しました。今後は、基本構想に基づき新庁舎の基本設計を検討していきます。今月号では幕別町新庁舎建設基本構想の概要の主な内容についてお知らせします。

○幕別町新庁舎基本構想の全文は、町ホームページの「庁舎建設に関する情報」に掲載しています。

[URL] <http://www.town.makubetsu.lg.jp/>

■問い合わせ先 企画室 TEL【幕】54-6610

能等の具体化と事業費の積算を行い、平成25年度に予定している実施設計の段階で精査していくことになり、無駄を省いたスリムな庁舎を目指し、費用の抑制に努めます。

② 財源の検討

新庁舎建設に際しては、合併特例債の活用を考えていますが、可能な範囲で基金の積み立てを行い、また新庁舎に導入を検討している機能に関連した各種補助事業などを最大限活用し、起債の借入額と一般財源の抑制を図り、他の施策の事業予算に影響を与えず、となく事業を進めていきます。

札内支所の機能拡充

① 健康相談の拡充

現在、札内支所（札内福祉センター）において開設している健康相談は週3回ですが、札内地区における保健福祉関連業務の拡充の一つとして、週5回の開設日等の拡充を計画しています。

② 業務実施体制の強化

各種届出などで利用者が混雑する6月～8月の時期に本庁各課と連携を図り担当職員が札内支所において受付業務を行うなど、利便性の向上に向けた取組の強化を進めます。

③ 札内福祉センターのあり方

9月に実施した耐震診断の結果では、構造耐震指標（IS値）が0.39で、震度6強以上の大規模地震発生時の安全性が確保されていない結果でありました。この結果を踏まえ、耐震補強のあり方などを検討します。詳細は、次のページに掲載しています。

▼基本構想(案)からの主な修正一覧

項目	修正後	修正前
第2章 基本理念	新庁舎の建設にあたっては、幕別町地域材利用推進方針（平成24年2月策定）に基づき、地域材の積極的な利用を検討し、周辺環境との調和が図られた意匠に配慮します。	新庁舎の建設にあたっては、周辺環境との調和が図られた意匠に配慮します。
第2章 基本理念	ユニバーサルデザイン、オストメイト、ライフサイクルコスト、自然エネルギーの4項目について、注釈を加えました。	—
第3章 新庁舎の機能	危機管理拠点として、平常時は通常の会議室として利用可能な災害対策本部会議室等の防災対策機能の導入を図ります。	危機管理拠点として、災害対策本部会議室等の防災対策機能の導入を図ります。
第3章 新庁舎の機能	来庁者の休憩スペースや住民の憩いの場として、喫茶コーナーや売店などの配置を検討します。	住民の憩いの場として、喫茶コーナーや売店などの配置を検討します。

新庁舎基本設計業者を久米設計に選定

新庁舎の設計業者を選定する設計者選考委員会では、基本設計業務委託先を「久米設計札幌支社」に選定しました。

この委員会は、公平性を保つため役場外部の専門家として、苫米地司さん（北海道工業大学学長）や福島明さん（北方圏建築総合研究所副所長）、町内の民間団体代表2人が委員を務め、町職員を含め計7人で構成しています。

設計業者の選考は、公募型プロポーザル方式で行われ、アトリエブランク、NTTファシリティーズ北海道支店、久米設計札幌支社、札幌日総建、大建設札幌事務所、ドーコンの6者から応募がありました。

9月に第一次審査として、各社の業務実績等を書類審査し、10月29日に設計の考え方などを説明する第二次審査が行われ、最優秀者として久米設計札幌支社を、次点者としてアトリエブランクを選定しました。

選定の理由は、担当チームの能力や業務実施方針の評価が高かったほか、環境負荷低減への配慮や住民の利便性の向上、防災拠点施設のあり方など、各項目において選考委員から高い評価を受け、第一次審査と第

二次審査の総合的な評価結果を踏まえ、最優秀者に選定しました。今後は、平成25年8月の基本設計完成をめどに、契約を交わし、更なる協議を重ねることとなります。協議の経過についても今後お知らせします。

▼参加した6者の評価結果

	久米設計	アトリエブランク	C社	D社	E社	F社
事務所の能力 (15点)	13.80	9.40	13.46	14.14	8.89	11.17
担当チーム能力 (25点)	14.77	12.16	21.63	15.12	13.15	15.30
業務実施方針 (20点)	15.73	16.73	12.40	11.07	11.00	9.27
提案内容 (40点)	29.19	33.12	23.76	20.31	21.56	17.96
合計点数 (100点)	73.49	71.41	71.25	60.64	54.60	53.70
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位

札内福祉センター耐震診断

9月、町では災害時の一次避難所に指定されている札内福祉センターの耐震診断を実施しました。結果は、震度6強以上の大規模な地震に対して、十分な安全性が確保されていないことが分かりました。

札内福祉センターは、鉄骨造り2階建て、延べ床面積1430平方メートルで築38年が経過しています。



▲札内福祉センター（札内青葉町）

耐震診断では、各階ごとに南北方向と東西方向それぞれで地震の揺れに対する強さを調査しました。

建物の耐震性能を表す指標である「構造耐震指標（IS値）」は、1階東西方向の揺れに対し0.39、1階南北方向の揺れに対しては0.48という結果となりました。

国土交通省の基準では、0.33～0.6未満は、震度6強の地震で「倒壊または崩壊の危険性がある」とされています。

▼平成24年度実施の耐震診断結果

階	X方向（東西）	Y方向（南北）
2	0.69	0.77
1	0.39	0.48

※「X方向」…東西方向の揺れに対する耐震性

※「Y方向」…南北方向の揺れに対する耐震性

札内福祉センターは、現行の「幕別町地域防災計画」における一次避難所や備蓄保管場所として指定している施設であることから、今後、札内支所の機能拡充の検討と合わせて、耐震補強のあり方などを総合的に検討します。